

大山郁夫 **社会運動家。権力に対抗し続け、多くの支持を得たが、アメリカ亡命を余儀なくされ、<敗戦>後に復帰。**

おおやまいくお

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 兵庫県赤穂郡の医師福本剛策の次男に生まれる。

明治14年政変 1881 = 1歳 :

帝国憲法発布 1889 = 9歳 :

日清戦争始 1894 = 14歳 :

白馬会 1896 = 16歳 : 小学校を卒業し、中国語研究生募集試験に合格して、1年間の給費生となる。

八幡製鉄始 1897 = 17歳 : 神戸の大山家の養子となり、

子規句歌革新 1898 = 18歳 : 神戸商業学校2年に編入、

田中正造直訴 1901 = 21歳 : 卒業し、東京専門学校英語政治学科に入学、

早大となった後、政治経済科を専攻、

日露戦争終 1905 = 25歳 : 卒業して、

満鉄発足 1906 = 26歳 : 同校の講師となる一方、結婚。

韓国反日暴動 1907 = 27歳 :

韓国併合 1910 = 30歳 : アメリカのシカゴ大学に留学、

明治天皇没 1912 = 32歳 : さらにドイツのミュンヘン大学に留学、

第一次大戦始 1914 = 34歳 : 帰国して早大教授となるとともに、政治評論家として文筆活動を開始。

民本主義 1916 = 36歳 :

ロシア革命 1917 = 37歳 : *同僚教授の不当戯首に反対して早大を去り、{大阪朝日新聞}に入社、論説記者となり、寺内内閣のシベリア出兵に反対するなど、民本主義の論陣を張ったが、米騒動をめぐる鳥居素川筆禍事件を機に長谷川如是閑・鳥居らと退社。以後、仲間を越えて、あらゆる権力に抵抗して行く。

本格政党内閣 1918 = 38歳 : 吉野作造らと{黎明会}を創立、

八村条約 1919 = 39歳 : 河上肇と雑誌{我等}を創刊し、デモクラシー思想の普及をはかる。

大暴落 1920 = 40歳 : 早大に復帰。

原敬首相暗殺 1921 = 41歳 :

関東大震災 1923 = 43歳 : 早大軍事研究団結成や第1次共産党事件による学内捜査に対し、学問研究の自由・大学擁護の闘いに学生とともにたつ。

護憲三派圧勝 1924 = 44歳 : 安部磯雄・鈴木茂三郎らと政治研究会を創立、

治安維持法 1925 = 45歳 :

円本時代始 1926 = 46歳 : 労働農民党委員長となると、

金融恐慌 1927 = 47歳 : それを理由に早大当局より退職勧告を受け、これに抗議し、全学的ストライキに発展(大山事件)。

共産党事件 1928 = 48歳 : 3・15事件で同党解散後、

世界恐慌 1929 = 49歳 : 河上肇・上村進と、新たに労働党を創立、合法左翼の<輝ける委員長>といわれる。

海軍軍縮条約 1930 = 50歳 : 衆院議員に当選。同年の同党解消運動では河上・上村ら解消派を除名。軍国主義化に抵抗したが、

満州事変 1931 = 51歳 : 満州事変が勃発し一気に軍国化が進む中、

五一五事件 1932 = 52歳 : *世界の諸事情研究と称して、渡米、

帝人疑獄事件 1934 = 54歳 :

ノースウェスタン大学政治学部嘱託となり、

日中戦争始 1937 = 57歳 :

日米開戦 1941 = 61歳 : 委嘱を受けて美濃部達吉の「憲法精義」の英訳に着手するも、胃潰瘍で入院し中断。日米開戦となって、日本帝国主義敗北を期待しつつも、日本人としての意識を保ち、

創価学会検挙 1943 = 63歳 : アメリカ政府による海外日本人革命政府樹立要請も拒否、

敗戦 1945 = 65歳 : *敗戦後、アメリカから非武装・中立・主権在民国家の樹立を日本国民に呼びかけ、

新憲法施行 1947 = 67歳 : 帰国し、反動勢力との闘いを宣言するとともに、三度目の早大復帰、

朝鮮戦争始 1950 = 70歳 : 参議院議員に当選。平和を守る会会長になるなど、平和運動を展開。

独立回復 1951 = 71歳 : 早大を定年退職。世界平和評議会理事。国際スターリン平和賞を受賞。

メデー事件 1952 = 72歳 :

その後、中国の周恩来首相や北朝鮮の金日成首席らと会見するなど、国際平和に尽力するが、

55年体制始 1955 = 75歳 : *蜘蛛膜下血腫で没した。